

渋沢栄一が設立に関わった企業のDNAを探る 第12回

東京都健康長寿医療センター 板橋区

世のため人のために力を尽くす

生涯にわたり携わった事業

東京都健康長寿医療センターは今から約150年前の1872年、「養育院」として誕生した。「養育院」は明治維新後の社会的混乱の中で、病気を抱えた人や高齢者、身寄りのない子供などを保護・救済する施設として設立されたものである。

「養育院」を創設したのは、当時の東京府知事・大久保一翁である。大久保



敷地内に建つ渋沢栄一銅像

は、元幕臣で旧知の渋沢栄一に同院の資金の運用を託した。渋沢は34歳から亡くなるまで、実業家としての活動と並行して生涯にわたり、同院の維持・発展に努めた。

現在、同センターで顧問医を務める稲松孝思氏は、渋沢と大久保の関係性について、「渋沢はパリ万博派遣団で会計係を任された際、幕府からの預かり金を運用して得た利潤を幕府の財政に計上していたという。大久保は渋沢を『経済に優れた信頼できる人物』と認めていたのではないかと推察する。

存続に向け多方面で奮闘

渋沢は1879年から半世紀以上にわたって養育院長を務めた。養育院廃止論を唱える声が東京府議会で挙がったときには、「論語でいう仁に基づいて政治を行うのは当然」と主張したものの、東京府は同院への税金による運営費支出を停止。渋沢は同院を存続させるため、政界・

財界人や市民などから寄付金を集めるなど、様々な働きかけを行った。

その後、85年に渋沢は東京府知事へ「養育院廃止に関する建議書」を提出。こういった渋沢の動きについて稲松氏は、「貧しく苦しむ人を助けることは社会を維持する上で必要な政治の役目だと考えていた」と解説する。

様々な人物の協力のもと発展

1890年、同院を支え続けたことが功を奏し、遂に東京市営となった。また、安達憲忠や田中太郎などの協力のもと、渋沢が政治的な仕組みづくりや資金集めを行い、彼らは企画や運営の実務を担った。まさに二人三脚で事業を進めていたのであった。

稲松氏は「渋沢は資金面だけでなく、院の運営や組織づくりなども気にか



歴史を語る資料の実物を多数展示



「様々な人に助けられて今日がある」という想いを大切にしたい」と稲松顧問医

ていた。安達や田中らと議論を重ねながら形にしたことが、養育院の事業として発展していった」と語る。

時代の求めに応え続ける

多岐にわたる企業活動に携わり、日本経済に貢献した渋沢について稲松氏は、「渋沢は金儲けではなく、**社会全体に利益を還元することを重視**していた。現在、渋沢の考え方が高く評価されているのは喜ばしい」と笑顔で話す。

『自分だけ良ければいい』という考えではなく、『**世のため人のために何かしたい**』という想いを持つ人を大切にしたい」と熱く語る稲松氏。東京都健康長寿医療センターはこれからも時代の求めに応え続けるため、渋沢の想いを引き継いでいく。



featuring

渋沢栄一

受け継がれたDNAとその言葉

東商初代会頭の渋沢栄一は、当時500を超える企業の設立に関わった。「民の力を強くしなければ、世の中の繁栄はない」「公益と私益の両立」といった渋沢の「意志」は現代でも脈々と受け継がれている。その意志をつなぎ現在も活躍する企業の取り組みや想いを紹介するとともに、渋沢が残した言葉の意味を検証し、これからの経済社会の在り方を考える機会としていきたい。

渋沢栄一の言葉

第40回

足るを知りて分を守り、これは如何に焦慮すればとて、天命であるから仕方がないとあきらめるならば、如何に処しがたき逆境にいても、心は平らかなるを得る。【論語と算盤：大丈夫の試金石】

私たちは現在、地球規模な危機の最中にいます。人類は数多くの戦争を繰り返してきて局所的な破壊や悲劇は大きかったものの、新型コロナウイルスのパンデミック（感染症の世界的な大流行）ほど広範的なスケールで世界の人々の日常生活を脅かしている危機は前代未聞です。

こういった中、特に犠牲になっているのは社会の高齢者や貧困弱者という傾向があり、経済界では大企業と比べると中小・小規模企業の資金繰りが厳しい状況に陥っています。間違いなく、世の中の

多くが逆境に立たされています。

渋沢栄一は「自然的逆境」に立った場合の心構えを言葉として残しています。「**足るを知る**」—何かを失ったことにより、何が有るかに気付いて感謝する。

「**分を守る**」—やるべきことをきちんとやって身を守る。（例えば、うがい、手洗い、マスク着用、不急不要な外出自粛で「密閉」「密集」「密接」を避ける など）

「**仕方がない**」—ジタバタするより、場合によっては思い切って断念する。

これらは、新型コロナウイルスが日本

で広まった当初、知人の医者がSNSで教えてくれた「色々な情報や状況に過剰に惑わされることなく『正しく恐れましょう』』という行動指針に通じるものがあると感じています。

ただ、新型コロナウイルスは自然的な存在かもしれませんが、危機は「人為的な」側面もあります。

渋沢栄一は「人為的な逆境」に立った時には、「**自分からこうしたいああしたいと奮励**」することが大事な心構えであると説いています。もちろん、これはMEの

ための自分勝手な行動を推奨している訳ではなく、**WEのための行動を自ら起こすべき**という奨励です。

新型コロナウイルス収束後、V型回復を望む声が多いと思います。ただ、元に戻ることはないでしょう。いや、元に戻すべきではない。BC (Before Covid-19) と比べてAC (After Covid-19) はより良い世の中にしなければなりません。

シブサワ・アンド・カンパニー社長
渋澤 健

今こそ、感染症対策を強化しましょう!

職場の感染症対策に役立つツールを無料で提供する

参加無料

職場で始める!

感染症対応力

向上プロジェクト

知識
習得
コース

コースI 感染症の知識を深める
感染症理解のための従業者研修

「感染症基礎知識ドリル」を無料でご提供。
eラーニングでの実施も可能です。従業者に感染症の予防と蔓延防止の正しい知識を身に付けてもらいましょう。

達成基準
従業員の8割以上が
教材受講

BCP
作成
コース

コースII 万が一の事態に備える
感染症BCP(業務継続計画)の作成

教材の空欄を埋めることで、感染症予防から業務継続計画まで体系的に対策を講じることができます。また、感染症BCP策定オリエンテーション等で、作成をサポートします。

達成基準
事業所単位の
BCP作成

お申し込み・詳細はこちらから <https://www.tokyo-cci.or.jp/kenkokeiei-club/12/>

挑みつける、変わらぬ意志で。
東京商工会議所

ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ：東京商工会議所 サービス・交流部

☎03-3283-7670

✉kenko1@tokyo-cci.or.jp

